

海外安全対策情報（平成31年1月～3月）

1 社会・治安情勢

ベラルーシの治安は、おおむね良好ではあるものの、過去には爆発事件やショッピングモールでの通り魔事件も発生しています。不測の事態を避けるため、多くの人が集まる記念式典やコンサート、集会等においては十分に注意が必要です。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）ベラルーシ共和国内務省が発表した犯罪統計によれば、2018年1月1日から12月31日（2019年4月18日時点での最新情報）までのベラルーシにおける犯罪総数は83,813件で、前年同期と比較し2.9%減少しています。主な犯罪の内訳は以下のとおりです。

ア 窃盗29,950件（前年比8.5%減）

（うち住宅対象侵入窃盗）8,522件（同5.9%減）

イ 公然窃盗1,463件（同5.3%減）

ウ 恐喝109件（同18.7%減）

エ 詐欺4,239件（同2.0%増）

オ 暴力犯罪4,182件（同0.9%増）

カ 殺人及び殺人未遂311件（同10.6%減）

キ 重傷傷害723件（同3.9%増）

ク 強盗135件（同22.4%減）

ケ 強姦及び強姦未遂152件（同17.4%減）

（2）邦人被害事案は報告されていません。

（3）2019年1月～3月における主な被害事案は以下のとおりです（当地の報道から作成）。

ア 1月14日、ミンスク市ソビエツキー地区で24歳のタジキスタン人学生が、向精神薬を売りさばいたとして拘束された。この男は、15グラム超の向精神薬粉末を28袋所持し、オンラインショップで販売していた。鑑定の結果、粉末には特に危険な α -PVPが含まれていることが判明した。今回の拘束は薬物の違法使用に関するものであると警察関係者は述べた。現在のところ、容疑者は自由剥奪12年の刑に処される見込みであるが、他の類似する犯罪への関与も調査中である。

イ 1月16日、昨年7月26日夜、グロドノ市ジェルジンスキー通りのアパート入口で少女2人に正体不明の物質を注射した、との事件に関する捜査が終了した。事件現場に残さ

れた証拠から、容疑者は36歳のグロドノ市民の男と判明した。事件現場から回収された注射器に残った物質の成分を細菌化学専門家が鑑定したところ、少女の生命や健康を脅かすものではないと判明した。容疑者は拘禁され、本事件は送検中である。

ウ 2月5日、ミンスク市内にあるベラビア航空のオフィスの1つに爆発物を仕掛けた、というEメールが届いたとして同社職員が警察に通報した。レーニン通りの同社オフィスを捜査グループが調べたところ、Eメールの内容は虚偽情報だったと判明した。この騒動で34人が避難した。同様に、ニェミガ通りの同社オフィスにも捜査グループと爆発物処理グループが調査を行った。詳細については現在捜査中である。

エ 2月11日、ミンスク州ストルブツィ第2中学校で、1人の生徒が突然教師と他の生徒に向かってナイフで襲いかかった。教師と生徒1名が死亡し、他に2名が病院に運ばれた。容疑者である生徒は間もなく拘束された。事件の詳細については現在捜査中である。

オ 3月1日深夜、28歳の男がミンスク市のショッピングセンター「ガレリオ」で階段から落ちて死亡した。監視カメラの記録から事件の状況を検査中である。

カ 3月14日、ミンスク市ダニルセルヂチャ通りのゴミ捨て場から、「危険。放射性物質または電離性放射線」と記載された、白いガラス製とプラスチック製の容器に入った放射性物質5kgが発見された。試験的測定によると、放射線量は容器の位置から1mで基準値の4倍を超えていたが、2mでは基準値内だった。放射性物質回収後の現場の放射線量は基準値内であった。放射性物質は、大学の化学部に勤務していた女性が所有していたもので、同人の死後に部屋の整理をしていた孫が中身を把握しないままゴミ捨て場に捨てていたことが判明した。

3 テロ・爆弾事件の発生状況

なし。

4 誘拐・脅迫事件の発生状況

なし。

5 日本企業の安全に関する諸問題

なし。

※上述の事案は全体の一部の情報です。定期的に報道などを確認し、自身の安全確保に努めてください。